

富山大学附属病院

第96回 地域医療連携セミナー

- ▶ 日時: 令和8年7月16日(木) 19:00-20:00
- ▶ 会場: 富山大学附属病院 総合臨床教育センター2階
多目的研修室&Zoomによるハイブリッド開催

担当 : 感覚器センター

テーマ : 五感を診る - 聞く・見る・感じるを支える医療 -

1. 「感覚機能と認知機能からみた健康寿命の延伸」

耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授

先端耳科・めまいセンター、感覚器センター センター長

森田 由香

2. 「視力障害・視野狭窄はQOLにどう影響？」

眼科 准教授

丸山 和一

3. 「『聞く・見る・感じる』に対する漢方治療」

和漢診療科 教授

貝沼 茂三郎

●本セミナーにご参加、ご視聴いただいた先生方は、日本医師会生涯教育制度についての単位取得ができます。(12:1単位)

【ご希望の参加形式を選択の上、事前申し込みのお願いをいたします】

<会場参加を希望>



<Web参加を希望>



お問い合わせ先: 富山大学附属病院医療福祉サポートセンター

076-415-8816 renkei@med.u-toyama.ac.jp

担当 : 感覚器センター

テーマ : 五感を診る — 見る・聞く・感じるを支える医療 —



「感覚機能と認知機能からみた健康寿命の延伸」

耳鼻咽喉科頭頸部外科 教授

先端耳科・めまいセンター・感覚器センター センター長
森田 由香

耳鼻咽喉科は五感のうち聴覚・嗅覚・味覚を担い、これまでも感覚器診療の中核を担ってきた。近年、難聴が認知機能低下の主要な修正可能リスク因子とされ、視力低下もその因子として報告された。さらに、認知機能と前庭機能障害との関連も明らかになりつつある。しかし、感覚機能低下相互の関連については未だ十分に解明されておらず、感覚器全体を包括的に捉える横断的診療の重要性が高まっている。本講演では、診療科横断的な視点から、これらの感覚機能障害と認知機能低下との関連を概説するとともに、日常診療における早期発見のポイントや専門医への紹介時期について提示する。

「視力障害・視野狭窄はQOLにどう影響？」

眼科 准教授 丸山 和一



視覚は日常生活動作 (ADL) および生活の質 (QOL) を規定する最も重要な感覚の一つである。視力低下や視野障害は、単なる「見えにくさ」とどまらず、転倒リスクの増加、うつ症状の発症、社会的孤立の進行など、多面的な影響を及ぼすことが知られている。本講演では、日常診療で遭遇頻度の高い白内障、緑内障、糖尿病網膜症を取り上げ、それぞれがどのように視機能を障害し、患者のQOLに影響を及ぼすかを概説する。さらに、眼科医がどのような検査で疾患を診断しているのか、加えて、白内障手術、緑内障治療、抗VEGF療法をはじめとする糖尿病網膜症の最新治療について紹介し、早期発見・早期介入の重要性を強調する。本講演を通じて、視覚障害が患者の生活に与える影響を再認識し、地域医療における多職種連携の重要性を共有することを目的とする。



「聞く・見る・感じる」に対する漢方治療

和漢診療科 教授 貝沼 茂三郎

西洋医学で十分な改善が得られない感覚系の不調に対して、漢方治療が有効な場合があります。漢方では、症状を単独で見るのではなく、体全体のバランスの乱れとして捉えるのが特徴です。「めまいやふらつき」などは漢方医学的には水分バランスの崩れである水滯、「耳鳴り、難聴」は加齢性的変化である腎虚、「視力低下」は腎虚に加え、血流障害である瘀血と考えて治療すると有効である場合があります。本セミナーでは症例を提示しながら代表的な方剤の使用方を解説します。